

## 下阿賀集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成23年4月27日

修正日：平成25年1月15日

市町村名	南部町	組織名	下阿賀機械組合
------	-----	-----	---------

1 地区の範囲  
鳥取県西伯郡南部町 下阿賀地区

2 地区の概要

水田面積	22.32 ha
主な水田栽培作物	水 稲
農家数	36 戸
認定農業者数	0 経営体
地域水田農業ビジョンの担い手数	0 経営体

3 組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。）

・ 設立時期（規約等の制定日）【平成 元年 4月 1日】

	組織形態（該当形態に○）	構成農家数
【現状】事業開始年度 (24年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未組織</li> <li>・ <del>作業受託型</del></li> <li>・ 共同利用型</li> <li>・ 協業経営型</li> </ul>	7 戸
【目標】事業開始翌年度 (25年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同利用型</li> <li>・ <del>作業受託型</del></li> <li>・ 協業経営型</li> </ul>	10 戸

注1) 集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増でも可。

4 集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

項 目	【現状】	【目標】
集 積 面 積    A	8.8    h a	11.5    h a
対象水田面積    B	22.32   h a	22.32   h a
集 積 率    A/B	40    %	52    %

注1) 集積率の目標は、50%超が採択要件。

注2) 集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。

注3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。

## I 集落営農に対する基本方針(自由に記載)

### 【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

#### 1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

##### <現状及び課題>

下阿賀集落は、南部町のほぼ中心に位置し、水田耕作面積22.32haのうち約10haが法勝寺川水系で水稲の栽培を中心に営む集落であります。

当集落においては、早期に圃場整備事業により農地や農道の整備を行い、農地の効率的な利用を模索する中、水稲の生産調整にも積極的に取り組んで参りました。

しかし、近年は農業従事者の高齢化、米価の継続的な下落等により、各個人の責任で行われるはずの水田の維持管理作業、用水路・農道の維持管理作業、獣害防止作業、病害虫防除作業などの管理が出来なくなりつつあります。

- ① 既に、集落の農家のうち10戸に農業後継者又は農業に対する意欲がなく、その圃場を下阿賀機械組合が耕作しています。今後さらに、農業後継者がいない農家が出てくることが予想され、耕作放棄地の発生が懸念されます。
- ② 下阿賀機械組合は、各作業（育苗・耕運・代かき・田植え・稲刈り）の作業受託を行ってきました。
- ③ 下阿賀機械組合が個人より借り上げて使用しているトラクターは、3台で耐用年数が超過しており、年々修理費もかかるようになってきました。作業労力の軽減と効率的な農業を図るために、下阿賀機械組合は昨年この事業でトラクター・畔塗機各1台を導入しております。また、今後さらに作業労力の軽減と効率的な農業を図るために各種作業機械の購入を考えています。
- ④ 下阿賀地区は県内でも初めの頃に圃場整備をしており、年数も経過しているということもありますが、近年整備した圃場に比べ畔などの構造が悪く、水の保水が良くない圃場が多くあります。
- ⑤ 現状は刈取り作業で8.8haの受託作業をしておりますが、将来的に受託面積の拡大をしていく予定です。しかしながら現在保有しているコンバインは作業能力が低く、今後面積を拡大していくには、より効率的に作業ができるコンバインを導入していく必要があります。

今後は、下阿賀機械組合が農業機械の購入により、作業受託の拡大などを通じて生産性の向上と経費の削減に努め、地域の農地を守り、当組合を中心として、効率的な生産体制を整備し営農意欲の高揚と地域の活性化に努めます。

##### <将来のビジョン>

耕作放棄地の発生を予防し、将来にわたって継続的な農業生産活動を可能にするためまた、当集落の水田農家が今後も不安を抱くことなく地域で生活し、農業に携わっていくために、下阿賀機械組合が水田の主要農業機械を購入し、作業受託を行い、効率的・安定的な農業を実現します。

- ① 農業の担い手となる農業者の育成は、活動組織（下阿賀機械組合）の体制強化に繋がることから、定年帰農者等を担い手に育成し、集落の営農体制の整備を図ります。
- ② 水田農作業の機械化・効率化による作業負荷軽減と低コスト化を図ります。
- ③ 下阿賀機械組合で水田農作業の受託作業を拡大します。

## 2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

### <現状及び課題>

平成23年度の作付け状況は、水稲約12.94ha、減反対象等7.16haとなっているが、耕作者の高齢化等により、現状維持が厳しい状況にあります。そのため大型農業機械と各種作業機を導入し、農作業の省力化を図り、耕作放棄地を出さないようにする必要があります。

### <将来のビジョン>

1. 水田農業については、地域で連携を図り水稲、転作作物を計画的に作付けし、安心・安全な農作物の生産に努めます。
2. 水稲以外の作物は、地域の立地条件を生かした産物を育成するとともに、産地づくり事業に基づいた品目栽培（そば・大豆）により、水田の有効利用と地域の活性化を図ります。

## 3 農業用機械施設の効率利用

### <現状及び課題>

当集落の平均水稲経営耕地面積は62aで兼業農家が多く、高齢化が進んでおり農業機械投資と農作業の負担が大きく、水田耕作維持が困難になってきています。

- ① 低迷する米価の中で、高い農業機械の購入が出来ない。砂地の圃場が多く水の持ちが悪いため、除草剤の効果が少なく草が生える圃場が目立ち、稲の収量も減っている状況です。
- ② 下阿賀機械組合は、トラクター3台、田植え機1台、コンバイン1台を保有し当集落の水田農業の担い手として活動をしています。しかし、耕作放棄地が増え始め、作業受託も増える中で、トラクター3台は耐用年数が超過しており、年々修理費もかかるようになってきました。作業労力の軽減と効率的な農業を図るために、下阿賀機械組合は昨年この事業でトラクター・畔塗機各1台を導入しております。一方で、保有する3条刈のコンバインも作耐用年数を超過し、故障も多いため、これ以上の受託面積の増加に対応できない状況にあります。

### <将来のビジョン>

- ① 高齢化等により現状のままでは、当集落の農地の維持が年々困難になってくることが予測されます。対応策としてトラクター、コンバイン他作業機械の購入をし、農作業の受託面積を拡大して作業負担の軽減と低コストの集落営農を目指します。
- ② 水持ちの悪い圃場は（畔塗機導入）畔の整備をして、収量を増やすよう努めます。
- ③ 下阿賀機械組合の構成員は、農業と副業の兼業農家が多く、機械の有効利用により、休日に集中する作業の負担軽減につなげます。

### <具体的取組>

- ① 年々増加している耕作放棄地を農地として維持するために、各種作業の効率化を図ることを目的として、トラクター、畔塗機及びコンバインを導入します。
- ② 現在、8.8haを作業受託しているが、新たに3名の組合加入を見込み、2.7haの経営面積の拡大を図ります。

#### 4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

- ①下阿賀機械組合は現在7戸で受託型作業をしており7戸の年齢内訳は、40代1名・50代3名・60代2名・70代1名で構成されています。後継者については各戸後継ぎが受託作業中数日間作業の補助等を行い後継者の育成を行っている。
- ②研修会や話し合いを重ねることにより、地域農業の将来性に対する意識の醸成を図ります。

#### 5 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューを実施する組織においては必ず記入】

## II 農業用機械施設の整備方針

### 1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
トラクター	24PS	1	2,403,096円	H23年11月	○
畔塗機	750H	1	635,000円	H23年11月	○
コンバイン	4条刈47PS	1	6,476,192円	H25年3月	○